

倫理 第39回「実存主義の先駆者～キルケゴールとニーチェ～」

○今回のポイント

人間性の喪失に対し、神に実存を見出したのが、キルケゴール。
人間が自分自身を超えてゆくことを求めたのが、ニーチェ。

○実存主義とは何か

- ・大衆社会の成立

資本主義 → 人間疎外の状況(画一化) → 無力感・不安感・孤独感を日常の惰性的生活で癒す → 大衆化

- ・大衆の特性 ← 実存主義は批判！！

❶「個性的で主体的な真の自己」を創造していくことを放棄して、**安易で怠惰な日常性(マイホーム主義、家庭生活、大衆娯楽)へ逃避**する。

❷無気力に**世間的常識や流行に自分を順応**させ、きびしい自己創造の自覚的努力を放棄し、**一般的な平均人として生きる**。

- ・【① 実存主義】とは何か？

現代社会の疎外状況を直視し、各個人の内面的な自覚・決断・努力によって、誰とも取り換えのきかない、かけがえのない主体性を確立し、このことによって人間の自己疎外を克服することを目指す思想。

Cf.人間疎外を【② 社会体制の変革】により克服しようとしたマルクス主義と対比せよ！

○【③ キルケゴール】

(1)例外者と主体的真理

- 大地震：父親が貧しさにより神を呪う&父がメイドを結婚前に孕ませてしまう
- 10歳年下のレギーネに対して婚約を破棄

a.現代はニクソンが画一化・平均化している「水平化の時代」。

⇒個性的、主体的に生きる人間、真に実存する人間が必要 ⇒単独者、【④ 例外者】として生きる人間！！

- ※❶たった一度しかない自分の人生を納得のいくように生きること
- ※❷自分を見失わずに独力で己が人生を切り開くこと
- ※❸自由な主体として生きること

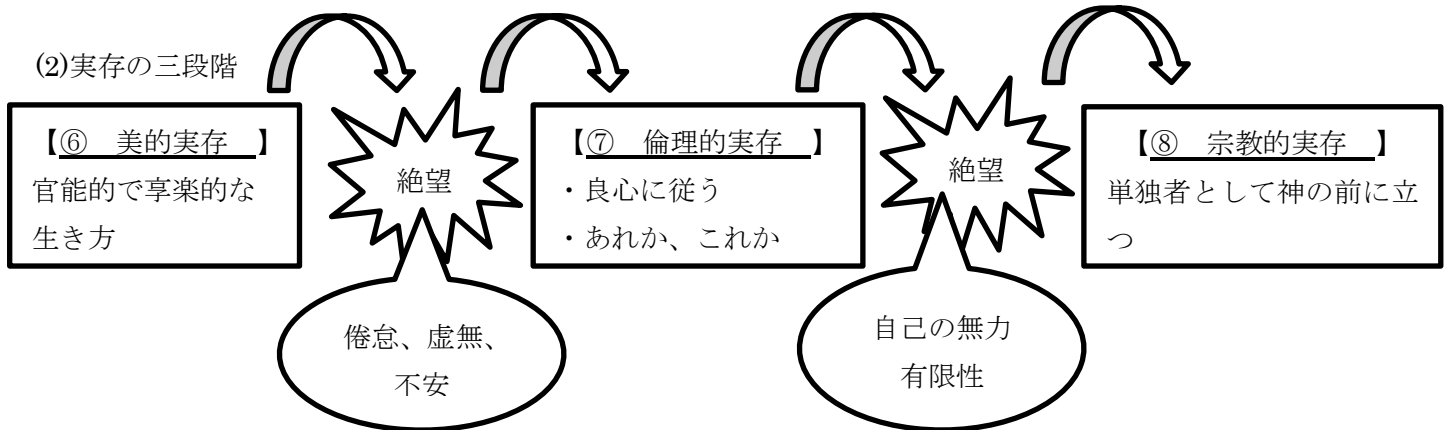
b.ヘーゲル批判

⇒ヘーゲルは、客観的真理・普遍的真理の重要性を主張するが・・・そんな真理は木杓にあるの？

⇒「私にとって真理であるような真理を発見し、私がそれのために生き、そして死にたいと思うようなイデー(理念)を発見する」ことが重要。

※私だけに当てはまる真理=【⑤ 主体的真理】

(2)実存の三段階



自己の自由な決断(理性ではなく**信仰の熱情**)によって、絶対者としての神と結びついたとき、真の人間性の主体性が実現される。

【⑨ ニーチェ】

(1) 【⑩ ニヒリズム】 (虚無主義)の時代

人間はもともと【⑪ 力への意志】 (自己の弱さにうちかって、より強くより高くなろうとし、新しい人生の価値を作り上げていく意志) をもっていたが・・・



キリスト教道徳は【⑫ 奴隷道徳】 !

富裕階層

迫害

社会的弱者

「カネモチになりたい。でもなれない」
⇒キリスト教：天国は貧しき者のもの
(無能さの正当化)

強者への【⑬ ルサンチマン】 (怨恨)から、想像の世界で復讐(キリスト教の創造)



力への意志が凡庸化・平均化される



人間は人生の目標や意義を喪失し、虚無主義に陥る

(2)超人

キリスト教道徳 (奴隷道徳) からの人間性を解放せよ!!



「【⑭ 神は死んだ】」: 既成の道徳や価値観、人間が支えとしてきた一切の価値を破壊。



では、神に代わって何を目標とし、何を支えとすべきか?



「【⑮ 超人】」…**力への意志**に燃え、イキイキとした人生をおくり、新しい価値を創造する人間



現実の世界を「【⑯ 永劫回帰】」と認識する。

現実の世界は目的もなく、意味もない、永遠の繰り返しであり、同一の姿・順序での生成流転の世界であるとする考え方。



【⑰ 運命愛】…ニヒリズムの世界を直視、肯定し、愛し、「【⑱ これが人生か、ならばもう一度】」と運命を受容する。無意味な人生の悲惨さを乗り越え、ニヒリズムを克服しようというのが、神無き世界を生き抜く超人の姿。